

# もったいないとゴミ減量

もったいないとは、「物の本来あるべき姿がなくなるのを惜しみ、嘆く気持ちを表している」といわれています。農林水産省では、**食べものにもったいないを、もういちど。**をスローガンに、食品ロスの削減に向けての取り組みを呼び掛けています。



## 環境 だより



問合せ先  
環境経済課 ☎ 95-1613

これは、平成25年度における日本の食品ロス(年間約632万t)が、世界全体の食料援助量の約2倍に相当し、この内、家庭から排出される量は年間302万tであり、国民1人当りの量で試算すると年間23.7kgとなります。これを本町の人口(23,555人)で計算すると年間558tであり、大口町から環境美化センターに搬入される可燃ごみ搬入量(年間3,312t)に占める割合は、約17%にもなることから、これ以上廃棄物を増やさないために、みんなで、できることから着実に進めていく取り組みが必要となったためです。

一人ひとりが日ごろから「もったいない」を心掛け、冷蔵庫・家庭内の在庫管理、計画的な買い物、食べ切り、使い切り、期限表示の理解など、食品を無駄にしない行動をとっていただくことで、生ごみ(可燃ごみ)減量に大きな効果をもたらします。



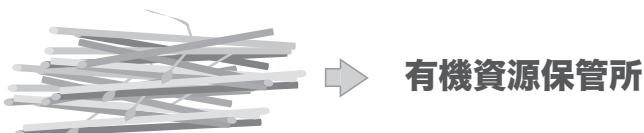
### 日本の食品ロス



## 環境への負荷を低減するには

大口町の家から出る可燃ごみの焼却場(江南丹羽環境管理組合美化センター)で、定期的実施している可燃ごみの分析調査によると、生ごみ類の約80%は水分であることから、水切りを十分おこなうことも効果的です。

紙、布類は分別して地区の資源ごみ回収日、または、資源リサイクルセンターに出すことで、ごみの減量が図れ、古紙やウエス(雑巾等)に再利用されます。また、家庭から出た剪定枝や草等は、有機資源保管所に出すことによりごみの減量が図れ、保管所に搬入された資源はチップ化し、土壌改良材やマルチング(根覆い材)として再利用されます。



可燃ごみの内訳は  
**紙、布類が  
半分を占めています。**

生ごみには  
**80%の水分が  
含まれています。**

ごみの発生を抑制し、排出されたごみは可燃ごみに出すのではなく、分別して資源化する取り組みを継続することで、最終処分場の延命化に繋がります。環境への負荷が低減されます。一人ひとりができることは小さなことでも、みんなで取り組めば大きな力になります。さあ、できることから始めましょう！今後も資源の有効活用、可燃ごみの減量にご理解とご協力をお願いします。